

《口頭発表》

日本コンピュータ音楽教育学会 17年の軌跡

～DTM活用による音楽教育の実践と推進～

Tracks of 17 years at Japanese Society for Computer Music Education

—Practice of musical education by DTM use, and promotion—

谷中優(千葉敬愛短期大学)

Suguru TANINAKA

(キーワード)

日本コンピュータ音楽教育学会, 音楽教育, コンピュータ, 創作表現

1. はじめに

本発表では、「日本音楽教育メディア学会」の前身である「日本コンピュータ音楽教育学会 (Japanese Society for Computer Music Education=JSCME)の17年の軌跡を辿ることで学会活動を振り返り、その意味性や問題点等についての考察を深め、それによって「日本音楽教育メディア学会」の方向性を明確化・再認識し、もって学会の共通理解を図ることを考えた。

今回の発表の基となった「日本コンピュータ音楽教育学会 17年の軌跡 ～DTM活用による音楽教育の実践と推進～」は、筆者の前任校の学会誌「金沢星稜大学人間科学研究」第4巻第2号¹に掲載されたものである。

2. 小論の概要

1993年8月「日本コンピュータ音楽教育ソサエティ」設立からの17年間を振り返り、その間の様々な出来事や活動の問題点等について再考する。設立趣旨「我が国のコンピュータによる音楽教育の普及と発展に寄与することを目的とする」を掲げ、その内容は、(1)コンピュータによる音楽教育の調査・研究。(実践研究、指導方法など

を含む)、(2)コンピュータによる音楽教育の普及活動。(研究会等の計画・実施を含む)、(3)その他の目的を達成する為に必要な事業。以上3点である。

ここでは本会の実施事業を提示し、活動(研修会、コンペ実施、授賞式・コンサート等)やそれに伴う子どもの様子、あるいはコンペ入賞作品の分析等について述べることで、本会の果たした役割や学会活動そのものを考察した。

3. 事業内容

(1)夏期研修会等の研究会の開催 (2)『コンピュータと子ども・音楽創作コンペ』の開催等(1996年～) (3)論文・研究レポート集、コンペ受賞作品集(CD-ROM)の出版、会報の発行等 (4)その他

4. まとめ

新生学会では旧学会の設立趣意や活動の積み重ねをベースに、音楽教育の新たな多面的アプローチが可能となった。本会は音楽教育が関わる他教科・他領域等との協働的活動を積極的に推進し研究を深化させることで、我が国における音楽教育の発展に寄与したいと考える。

¹ 2011.3